

東光寺だより

令和の珍事 国民総マスク

令和の毎日、会合、集会、通行人、会食場あらゆる場所で新型コロナウイルス感染予防対策としてマスクが必要品となりました。中国武漢を発症とされるコロナ禍は日本においては二月、三月になって大変な騒ぎになりました。その結果マスクの需要が増え、買い占めが行われ、ネットなどで高く販売する人もできました。一方マスクは買う物という概念から、自分で作製して使用するものだという傾向も増え、時間のある人は家庭でいろいろ作製するようになりました。マスクはもともと防寒用に使用されることが多く、風邪を引かないようにという意味でマスクをかけました。ところが今回の新型コロナウイルス感染症には、自分の感染予防というよりむしろ、自分が保菌者であるとして他人に感染させないようにとマスクをかけることになりました。

従来マスクをかけている人は 季節によって風邪を引いている人、花粉症対策でかけている人、中には顔を見られたくない人もかけています。従って使用目的、季節によってマスクの種類も違ってくるのも当然であると思います。

マスクを必要とする人（現在は国民全員）

目的 コロナウイルス感染拡大予防対策 自分が保菌者である場合、最も目の細かい、医療従事者使用のマスクが必要、家庭での布地では不可

コロナウイルスの大きさは0.1マイクロメートル具体的にいえば人間170センチを地球の直径の大きさとすると、細菌は6階建てのビルの大きさであり、コロナウイルスは愛玩用の犬ぐらいの大きさだという説明があります。勿論電子顕微鏡での世界で我々の目に見える対象物ではありません。従って現在ではマスクよりガラス、ビニール、アクリル板などで遮蔽していますが、それらも顕微鏡で覗いてみれば穴だらけです。防ぎようがありません。しかしコロナウイルスは湿気を帯びると大きくなり重くなるそうです。従って、空気中に浮遊しているより、感染者の口から出たときは大きくなっているのでマスクの布地に引っかかる可能性があるということです。現在では、自分が保菌者

であるという意識から他人に感染させない配慮（エチケット）として掛けるようにしています。

目的 花粉症 花粉吸引予防対策 季節によって、または時間によってことなる。花粉は比較的大きいので従来のマスクで十分ですが口、鼻を密閉するように工夫することが大切です。因みに花粉は30マイクロメートル

目的 コロナウイルス感染予防対策協力 感染自覚症状なしの一般すべての人の使用

人と接する機会はすべての人にあります。この場合マスクは眼鏡と同じく相手から見られるという一面があります。したがって一種のファッションと考えている人もあるのは当然です。現在マスクがようやくショッピングセンターなどにも出回るようになりました。ネットでもファッションを加味した種々のタイプのものが出品されています。

使用の目的は「コロナ対策」ですが、日常生活の義務として外出時には必ずマスクをするという意識が定着してきました。MY マスクという感覚です。

これからもマスクが今のように日常で必要とされるならば、耳に掛けるということは変わりませんが、形、色個性豊かなマスクが考えられます。

使用する布は日常生活のどこにでもある、木綿、絹麻 フェルト、もちろん不織布、ニット、デニム など、洗える布なら何でも使用可能だと思います。

しかもマスクの表面には 年齢 用途 行き先に合わせて 子ども用には漫画のキャラクターや動物の目鼻をつけたり 「洗えるマスク」を「笑えるマスク」にすることです。

テニスの大坂ナオミさんも早速マスクを意思表示の道具に利用していますね。

最後に、一番大切なことは、本来の目的であるコロナ対策はどうするかという点です。私は必要に応じてガーゼ、ティッシュペーパー、夏には冷感布、清涼ポリエステル生地、などを一枚挟むことです。

マスクの内側に抗菌剤や清涼剤を塗布したりして細工をすることを提案いたします。

マスクに関する概念・常識ががらりと変わった年でもありました。 令和2年9月

文責

東光寺住職 鷺見邦隆